

四二 (土)日月	五二 (日)日月	六二 (月)日月
○第六回總會議 (前一〇、三〇) 一、戰時法規委員 會ニ關スル第二 十一回軍制總委 員會決議ヲ確認 ス		○第七回總會議 (前一〇) 一、海軍條約潛水 艦毒瓦斯條約案 調印サル 二、「ハーディン グ」閉會ノ辭

第一編 海軍軍備制限問題

第一章 總 說

第一節 華盛頓會議帝國全權委員ニ對スル訓令

第一 一般方針

一般方針

一 世界恒久平和ノ確立並人類福祉ノ増進ハ帝國外交ノ要諦ニシテ今次ノ會議ニ對シテモ帝國政府ハ此ノ精神ニ基キ欣然
參加スルニ至リタル次第ナルヲ以テ閣下等ハ終始此意ヲ體シ會議ノ成果ヲ舉グルコトヲ期セラルヘシ

二 軍備制限問題並ニ太平洋及極東問題ハ共ニ帝國利害ノ關スル處最モ緊切重大ナルカ故ニ閣下等ハ會議ノ情勢ヲシテ帝
國ノ利益ニ合致セシムルコトヲ期セラルヘシ

殊ニ帝國ノ國是タル平和政策ニ對シテハ從來往々誤解謬想ナキニアラサルヲ以テ此ノ際善ク帝國ノ真意ヲ闡明シ國際間
ノ信望ヲ増進スルニ努メラルヘシ若シ夫レ米國トノ親善圓滿ナル關係ヲ保持スルコトハ帝國ノ重キヲ置ク所ナルヲ以テ
本會議ニ於テモ右關係ヲ益々鞏固ナラシムルノ結果ヲ齎スコトニ力ヲ致サルヘシ

三 太平洋及極東問題討議ノ目的ハ軍備制限問題ニ關聯シ「將來ノ爲一般ノ原則及政策ニ付列國共通ノ諒解ヲ遂クルニア
ルヘキコトヲ願念シ」濫ニ此ノ本旨ヲ離脱シテ無益ノ紛糾ヲ招クカ如キコトナカラシムルハ會議ノ目的達成上最モ緊要
ナリ閣下等ハ常ニ意ヲ茲ニ用ヒ會議ノ大勢ヲ右ノ主旨ニ合致セシムルニ努メラルヘシ

四 太平洋及極東問題ノ討議ニ當リ原則及政策ノ樹立並ニ適用上列國一般ニ利害關係アル諸問題ニ就キ共通ノ諒解ヲ遂ク
ル爲之ヲ論議スルコトハ帝國ニ於テ異議ナキ所ナリ從テ帝國ニ取リ重要ノ關係アル既成事實若クハ特定國間限リノ問題

ト雖モ右ノ目的ヲ以テ之ヲ論議スルコトハ差支ナキモ進テ之ヲ審査裁決スルコトハ反對セラルヘク又獨リ帝國過去ノ施措政策ノミヲ批判セムトスルカ如キ形勢ヲ生セシメサル様機適當ノ措置ヲ取ラレヘシ

五 今回會議ノ主眼ハ軍備制限ニ在リ太平洋及極東問題ハ之ニ關係シテ討議セラルヘキモノナルニ鑑ミ會議ノ初ハ先ツ軍備制限問題ヲ討議シ次テ太平洋及極東問題ノ討議ニ移ルコトヲ主張セラル可シ尤モ會議ノ情勢上右主張ノ貫徹困難ナル場合ニハ少クトモ兩問題ヲ平行シテ討議スルコトニ決定ヲ見ル様措置セラレタク若シ又之カ貫徹ノ見込無キ時ハ軍備制限ヲ主眼トスル趣旨ヲ失ハサル限リ太平洋及極東問題ヲ先議スルコトニ同意セラレ差支ナシ

六 國際爭因ハ獨リ太平洋及極東ニ限ラス却テ他ノ方面ニ多ク存在スルノ事實ハ之ヲ認メサル可ラサルモ先ツ一局面ノ爭因ヲ除去スルコトモ亦軍備制限ヲ容易ナラシメ世界恒久平和ノ確立ニ資スル所以ナルヘキヲ顧ミ帝國政府ハ軍備制限問題ト關聯シ日本ト直接重要ノ關係ヲ有スル太平洋及極東問題ノ討議ニ參加スルモノナルコトヲ適當ノ機會ニ於テ言明シ置カレタシ

七 會議中適當ノ時機ニ於テ太平洋及極東ニ於ケル恒久平和ノ確立ヲ主眼トスル日英米三國協商案ヲ提唱スルニ便ナル形勢ヲ誘致スルニ努メラル可シ

八 軍備制限問題ノ討議ニ當リ同盟當事國ノ軍備ニ對シテハ特別ノ考慮ヲ加フルノ要アリトノ議起ルナキヲ保シ難キ處斯ノ如キ場合ニハ先ツ以テ英國側ト隔意ナキ協議ヲ遂ケ成ル可ク協同ノ態度ニ出ツル様措置セラレ度シ尤モ會議ノ情勢上必要アルニ於テハ軍備制限協定國間ニハ其ノ何レノ國ヲモ目標トスル同盟關係ナキ次第ヲ認ムルコトニ贊同セラレ差支ナシ

九 軍備制限協定又ハ日英米三國協商ニ關聯シテ日英同盟存續ノ問題考量セラルルニ於テハ帝國ハ日英同盟條約ハ前記協定又ハ協商ニ依リテ自ラ變更ヲ來スコトアルヘキモ尙存續セシムルモ妨ナシ、但シ英國ニシテ右協定又ハ協商ヲ以テ同盟條約ニ代ヘムコトヲ欲スルニ於テハ之ニ同意セラレテ差支ナシ

又軍備制限協定商議ノ前提トシテ他國一致シテ日英同盟廢棄ヲ主張スルニ於テハ右同盟條約中該協定ノ障礙トナル可キ條項ハ協定各國ニ對シ適用ナキコトヲ宣言セラレ差支ナシ

一〇 帝國政府ハ國際聯盟ノ一員トシテ其ノ存立ヲ尊重ス可キコト勿論ナリト雖今回會議ノ結果或ハ聯盟ノ事業ト多少ノ逕庭ヲ來シ若クハ聯盟規約改正ノ必要ヲ生スルカ如キコトアル場合ニ於テハ英佛伊三國ト協調ヲ經テ其ノ討議ニ參加セラレタシ又米國ヲシテ國際聯盟ニ加入セシムルノ勸告提議ニ對シテハ同シク其ノ議ニ參加アリタシ

一一 嚮ニ米國大統領ノ提唱シタル國際聯合ハ其ノ意義未タ明確ナラサルモノアルヲ以テ之ニ對シ豫メ帝國政府ノ態度ヲ決定スル能ハサルニ付會議中同問題討議セララル場合ニハ詳細案ヲ具シテ請訓セラルヘシ

一二 帝國今日ノ經濟狀態ニ鑑ミ人口問題及原料問題ハ國民生活ノ安定福祉ヲ確保スル爲最モ緊要ナルヲ以テ閣下等ハ今回會議ニ於テ常ニ此ノ點ヲ顧念シ機ニ應シ帝國ノ地歩ヲ辯明シ又ハ我カ提案説明ノ資料トシテ列國ニ啓示シ充分之ヲ諒解セシムル様努メラレ度シ

一三 帝國ハ今回ノ會議ニ於テ他ノ參列國ニ對シ概ネ中正ノ態度ヲ執ルヲ得策トス可キモ日英同盟ノ關係並極東ニ於ケル兩國ノ地位ニ顧ミ英國トノ協調ヲ保ツコトニ留意セラルヘシ

一四 軍備制限問題並太平洋、支那、西伯利亞ノ各問題ニ關シテハ別添ノ要旨ニ遵ヒ臨機適切ノ措置ヲ執ラレタク尤モ帝國ノ利害ニ重大ナル影響アルヘキ問題ニ就テハ事緊急ヲ要スル場合ノ外豫メ請訓セラルヘシ

第二 軍備制限問題

帝國ハ常ニ自衛ニ必要ナル最少限度ノ兵力ヲ保有セムコトヲ目的トシテ之ヲ建設維持シ來タリタルカ列強軍備ノ規模漸次擴大スルニ伴ヒ帝國モ亦勢ヒ之ニ對應セサル可ラサルニ至リ而モ容易ニ所期兵力ノ程度ニ到達スルヲ得サル現況ナリ然ルニ世界大戰ノ結果國際協調ノ精神物興シ軍備制限ノ急務ナルコト廣ク唱導セラレ國際聯盟ニ於テ右制限ノ事業ニ着手シタ

ルモ強大國中之ニ加盟セサルモノアルカ爲メ遺憾ナカラ未タ其ノ實現ノ域ニ達スルヲ得サリシカ今回米國大統領ノ招請ニ依リ五大國間ニ軍備制限ニ關スル協議ヲ開催スルコトナリタルハ世界平和ノ爲メ帝國政府ノ大ニ歡迎スル所ナリ而シテ吾カ軍備ニ密接ナル關係ヲ有スル露支兩國ノ狀態ハ未タ安定ヲ見ルニ至ラスト雖今次會議ノ結果少クトモ東洋ノ形勢ヲ緩和シ吾カ國防ニ良好ナル影響ヲ齎ス可キヲ以テ閣下等ハ公正眞摯ナル態度ヲ以テ討議ニ臨ミ帝國々防ノ安固ヲ確保スルト同時ニ軍備制限ノ實現ヲ期セラル可キ各個ノ問題ニ關シテハ先ノ方針ニ遵ヒ適宜措置相成度シ

(甲) 陸軍ノ部(第三篇第一章第一節參照)

(乙) 海軍ノ部

海軍ノ部

一 夫レ一國ノ保有スヘキ軍備ノ程度ハ其ノ國自カラ決定ス可キモノニシテ敢テ他國ノ強制ヲ受クヘキモノニ非サルノミナラス兵衛上ノ見地ヨリスレハ凡ソ各強大國ノ軍備ハ均勢ナラサルヘカラスト雖今回ノ會議ニ於テ強テ此ノ見解ニノミ執着スルトキハ會議ヲ不成功ニ終ラシメ將來益々列國間ノ軍備競争ヲ激甚ナラシムルノ弊害ヲ釀成スルニ至ルヘキヲ以テ各國ハ須ク相互ニ其ノ獨立主權ヲ尊重スルト同時ニ善意ノ疏通了解ト平和愛好ノ崇高ナル念トヲ以テ和衷協同シテ軍備制限ヲ實現セサルヘカラルモノト認ム故ニ閣下等ハ此ノ精神ヲ體シ充分ニ努力アリ度シ

二 帝國ノ海軍兵力ニ關シテハ地理的地位及國情ニ鑑ミ強テ他ノ強大國ト均勢ヲ主張セントスルモノニ非スト雖帝國ノ安全ト世界平和ノ維持トノ爲メ少クトモ東洋ノ海面ニ於テ彼等ノ運用シ得ヘキ實勢力ト略均衡ヲ保持スルニ足ルモノナラサルヘカラス之カ爲メ主力艦二十四隻ヲ基幹トスル兵力ノ必要ヲ認メテ勅裁ヲ經タル後既ニ帝國議會ニ於テ海軍大臣ノ聲明シタル所アリ然レ共今回ノ制限協定ニ際シ帝國ノ保有ス可キ海軍兵力トシテハ大體ニ於テ豫算ノ協贊ヲ經テ建造ニ着手中ナル八八艦隊ヲ標準トスルモ米國又ハ英國ト較上ノ趣旨ニ適合スル割合ヲ維持シ且太平洋ニ於ケル形勢ニ將來大ナル變化ヲ見ルコトナキ限リ現ニ實行中ノ本計畫ヲ固執スルコトナク情況ニ應シ之ヲ低減スルヲ辭セス

三 海軍軍備制限ノ範圍ニ關スル帝國ノ主張ハ管ニ將來ノ建艦ニ關シテ協定スルニ止マラス既定計畫ニ屬スル未完成艦

ヲモ併セテ制限範圍ニ包含セシムルノ主義ヲ執リ既成ノ兵力ニ關シテハ之ヲ制限ノ範圍外ニ置クコトトス

四 軍備制限ノ方式ニ關シテハ制限ノ有效確實ヲ期スル爲メ左ノ提案ヲ爲シテ之ヲ主張ス但シ會議ノ趨勢ニ依リテハ必ラスシモ之ヲ固執スルコトナク我ニ不利ナラサル限リ他案ニ交譲同意スルコトアルヘシ

(イ) 主力艦ノ數及各艦排水量ノ制限

(ロ) 主力艦以外ノ巡洋艦、驅逐艦、潛水艦及航空母艦ノ總噸數制限

右ノ二項ヲ併セ行フコト

五 制限協定ノ期間ハ國際聯盟規約第八條ノ規定ニ準シ一期間ヲ十年トシ本協定ハ可成速ニ各國同時ニ之ヲ實施センコトヲ希望ス

六 帝國海軍兵力制限ノ基準タルヘキ英米ノ海軍力ニ關シテハ該兩國モ亦進ンテ最低限度迄制限スルヲ快諾センコトヲ帝國ニ於テ切望スル所ナリ而シテ該兩國間ノ兵力比ニ付テハ我ニ大ナル不利ヲ來ササル限リ主トシテ兩國間ノ協定ニ俟チ我ノ深ク關スル所ニアラサレ共其ノ協定困難ニ陷レル場合ニ於テハ要スレハ適宜之カ調停ニ努メラレ度シ

七 航空兵力ノ制限ハ徹底ヲ期シ難キモノナリト認ムルモ會議ノ大勢上制限ヲ可ナリトセハ之ニ同意セラレ差支ナシ然レ共帝國航空兵力ノ現勢ハ列強ニ比シ甚スキ逕庭アルコトヲ特ニ考慮スルヲ要ス

八 太平洋諸島防備ノ撤廢若ハ制限ニ關シテハ平和維持上ノ見地ヨリ適當ノ機會ニ於テ帝國ヨリ之ヲ提議シ少クモ現狀維持ノ程度ニ協定ヲ成立スルコトニ努メラレ度シ

九 潛水艦ハ帝國國防上必須ノモノタルヲ以テ之カ廢止ニ反對ス

一〇 軍艦ノ武裝制限ニ對シテハ主義トシテ同意スルモ各國ノ工業能率其ノ他ノ事情ニ應シ若干斟酌ノ餘地ヲ有スルコトニ努メラレ度シ

一一 帝國ノ徵兵制度ハ各國ノ態度如何ニ拘ラス帝國ノ國情上之ヲ撤廢スルコト能ハス

- 一二 軍人ノ服役教育軍ノ編制等ニ關シテハ全然各國ノ自由ニ委スルヲ要ス
- 一三 兵器彈藥及軍用器材ノ平時貯藏數量ヲ制限セントスルノ提案ニハ賛成セス
- 一四 民衆ニ依ル兵器彈藥及軍用器材ノ製造ハ帝國ニ於テハ何等國際平和ニ惡影響ヲ及ホスノ虞ナシ從テ現狀ニ對シ變更ヲ加ヘ又ハ制限ヲ設クルノ必要ヲ認メス
- 一五 毒瓦斯ノ使用ニ關シテハ人道上ノ見地ヨリ之ニ反對ス但シ會議ノ大勢之ヲ許ササル場合ニハ適宜ノ處置ヲ執ラレ度シ
- 一六 無防禦ノ住民地ニ對スル空中爆撃ニハ反對ヲ主張ス
- 一七 軍備制限實行ノ爲メ國際監督機關設置ノ提案ニ對シテハ之レ重大ナル主權侵害ニシテ且ツ初ヨリ協定各國ノ誠意ヲ否認スルモノナルヲ以テ之ニ反對ス
- 一八 帝國海軍々備ノ規模將來ノ企劃等ニ關スル報道交換ニハ同意スルモ右報道ハ帝國議會ニ於テ發表スルノ程度ニ準スルヲ要ス

第二節 議事經過ノ概要

第一 米國ノ提案

議事經過
ノ概要
米國ノ提
案

大正十年十一月十二日第一回總會議ニ於テ米國國務長官「ヒューズ」氏ハ海軍力ノ制限ニ關スル極メテ具體的ナル米國案ヲ提出セリ其ノ要旨ハ

- 一 主力艦建造計畫ハ目下實行中ノモノタルト否トヲ問ハス總テ之ヲ拋棄スヘキコト
- 二 老艦中ノ或モノヲ廢棄スヘキコト
- 三 關係國ノ海軍力ヲ決定スルニ當リ大體ニ於テ現在ノ海軍力ヲ考量スヘキコト

四 主力艦ノ噸數ヲ以テ海軍力測定ノ標準ト爲シ之ニ比例シテ補助艦艇ノ勢力ヲ割當ツヘキコト

ノ四綱領ヲ基礎トシ大戰ノ爲甚シキ創痍ヲ蒙リタル佛伊兩國ノ海軍力制限問題ニ付テハ後日更ニ之ヲ討議スルコトトシ先ツ以テ現ニ互ニ造船競争ヲ行ヒツツアル日、英、米三國ノ海軍力ノ制限ニ關シテノミ具體的提案ヲ爲サムトスルモノナリ該提案中主力艦ニ關スル部分ノ大要ヲ述フレハ米國ハ建造中ノ主力艦十五隻約六十二萬噸老艦十五隻約二十三萬噸合計三十隻約八十五萬噸ヲ廢棄シ

英國ハ建造中ノ主力艦四隻約十七萬噸老艦十九隻約四十一萬噸合計五十八萬噸ヲ廢棄シ

我國ハ建造未著手ノ主力艦八隻ノ造船計畫ヲ拋棄シ建造中ノ主力艦七隻（陸奧ヲ含ム）約二十九萬噸老艦十隻約十六萬噸合計十七隻約四十五萬噸ヲ廢棄セムトスルモノニシテ其ノ結果日、英、米ノ主力艦ハ米國十八隻約五十萬噸英國二十二隻約六十萬噸日本十隻約三十萬噸ト爲ルヘク而シテ今後十年間ハ原則トシテ此ノ狀態ヲ其ノ儘ニ繼續シ十年後ニ至リ始メテ艦齡二十歳ヲ超エタルモノノミニ限リ之カ代艦建造ヲ許シ尙代艦建造ノ結果日、英、米三國ノ海軍力ヲ各三、五、五ノ比ニ保タムトスルモノナリ

右「ヒューズ」氏ノ提案ニ對シ十一月十五日ノ第二回總會議ニ於テ英國全權「バルフォア」氏先ツ大體之ニ同意ノ旨ヲ宣シ我加藤全權又大體ニ於テ提案ノ主旨ニ異議ナキ旨ヲ明言スルト共ニ米國案ノ審議ニ當リ國家ノ安全ニ關スル問題ニ付テハ十分ノ考慮ヲ拂フノ要アリ此ノ見地ヨリ多少ノ修正ヲ提議スル心組ナル旨ヲ附言シタリ

第二 主力艦

十一月十六日ヨリ米國案ヲ海軍專門委員ヨリ成ル分科會ニ付議シテ専ラ技術的方面ヨリ之ヲ研究セシメタルニ同委員會ニ於テ我委員カ日、英、米三國海軍力ノ比率ヲ七、十、十トシ且陸奥ノ保留セラルヘキモノナルコト等ニ關シ提出セル修正案ニ付日米兩國委員間ニ意見ノ一致ヲ見ル能ハス依テ加藤全權ハ「ヒューズ」氏「バルフォア」兩全權ト會見シ其ノ結果米國案カ基礎